

新札発行記念 シンポジウム

参加無料

主催：津田塾大学

12 / 3 SUN
2023
13:30-16:10

会場

津田塾大学 小平キャンパス
特別教室

〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

※ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。

西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約 8 分 / JR 武蔵野線「新小平」駅より徒歩約 18 分

2024 年度からの新札発行を前に、渋沢栄一、北里柴三郎、津田梅子にゆかりの深い方々にご参集いただき、それぞれの人物が時代のなかで果たした役割についてお話いただきます。第 1 部では東京商工会議所三村明夫名誉会頭の基調講演、第 2 部で飯野正子元津田塾大学長による津田梅子についての講演、その後関係者による鼎談「明治のパイオニアたちが力を注いだ女子高等教育」（進行役：高橋裕子津田塾大学長）を行います。学生や市民を中心とする一般の方々を主な対象として、広く三者の思想、功績を発信し、激動する時代を生き抜く一助とすることを目的とします。

1 基調講演 13:35-14:30

「渋沢栄一の遺したもの」 三村明夫
東京商工会議所名誉会頭

2 講演 14:40-15:00

「津田梅子の生き方」 飯野正子
元津田塾大学学長

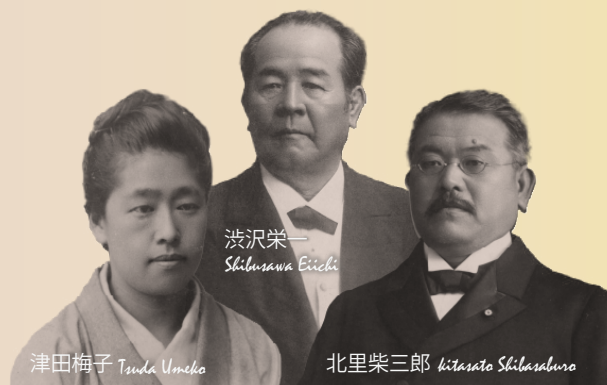
3 鼎談 15:00-16:00

「明治のパイオニアたちが力を注いだ女子高等教育
— 激動の時代を生きた 3 人の思いとは」

島袋香子
北里大学学長

井上潤
渋沢史料館顧問

高橋裕子
津田塾大学学長



お申込みはこちらから

下記、申込フォームからお申込みください。



「新札発行記念
シンポジウム申込フォーム」

<https://forms.gle/CvTBnRa1ywfwjWM717>

お問い合わせ

津田塾大学 経営企画課

〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

電話番号：042-342-5146

メールアドレス：senryaku@tsuda.ac.jp

公式ウェブサイト：https://www.tsuda.ac.jp

紙幣の肖像の選定理由

新しい紙幣の肖像になる渋沢栄一氏、津田梅子氏、北里柴三郎氏は、それぞれの分野で傑出した業績を残すとともに、長い時を経た現在でも私たちが課題としている新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面からも日本の近代化をリードし、大きく貢献した方々です。三者ともに、日々の生活に欠かせず、私たちが毎日のように手に取り、目にする紙幣の肖像としてふさわしいと考えています。

出典：財務省ウェブサイト (<https://www.mof.go.jp/faq/currency/07ap.htm>)

新紙幣の肖像画になる 3 名の人物



東京商工会議所 所蔵

渋沢 栄一 しぶさわ・えいいち (1840～1931)

埼玉県深谷市出身。日本の実業家。江戸時代末期に農民から武士に取り立てられ、一橋慶喜に仕える。27歳の時、第15代将軍となった徳川慶喜の実弟徳川昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学するほか欧州諸国を訪問。明治維新が起り、欧州から帰国すると、静岡に「商法会所」を設立。その後、明治政府に出仕し、井上馨のもと、民部省、大蔵省の官僚として、造幣、戸籍、出納など、さまざまな政策立案を行い、新しい国作りに深く関わります。

退官後は実業界に転じ、第一国立銀行、東京商法会議所（現在の東京商工会議所）、東京証券取引所などの企業や団体を設立・経営。生涯に481社（東京商工会議所調べ）の企業に関わったとされ、「近代日本社会の創造者」と称されます。同時に約600の教育機関や社会公共事業、研究機関等の設立・支援にも尽力。「論語と算盤」の言葉に代表される「道徳経済合一」の理念でも知られています。



津田塾大学 所蔵

津田 梅子 つだ・うめこ (1864～1929)

東京出身。明治・大正時代の教育者。女子英学塾（現・津田塾大学）の創設者。

江戸幕府の外国奉行支配通弁（通訳官）を務めていた津田仙、初子夫妻の次女。1871年、6歳の時に日本最初的女子留学生として岩倉遣外使節団と共に渡米。ワシントン近郊のジョージタウンに住むランマン夫妻の元に約11年間滞在し、17歳で帰国。のちに華族女学校教授に就任します。

女性の地位を高めるために自分自身の学校を作りたいと願う梅子は再度留学を決意。1889年、再渡米し、プリンマー大学で生物学を専攻。（その際に執筆した論文が英国の学術雑誌に掲載されたため、「欧米の学術雑誌に論文が掲載された最初の日本人女性」と言われている。）1892年に帰国。華族女学校、女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）で教鞭を執った後、1900年、女子英学塾を創設。生涯を通じて、女性の地位向上と女子高等教育に尽力しました。



学校法人北里研究所 所蔵

北里 柴三郎 きたさと・しばさぶろう (1853～1931)

熊本県小国町出身。「近代日本医学の父」と呼ばれる微生物学者・教育者。

肥後国阿蘇郡小国郷北里村（現在の熊本県阿蘇郡小国町北里）の庄屋の長男に生まれ、幼少期は、四書五教などの儒教を学びます。1871年、18歳で古城医学所兼病院（現・熊本大学医学部）にて、オランダ人軍医マンスフェルトに師事し、医学の道へ。1874年、東京医学校（現・東京大学医学部）入学。在学中に予防医学を生涯の仕事とすることを決意し、卒業後は内務省衛生局に勤務します。

1885年からドイツのベルリン大学に留学し、コッホに師事。1889年、世界初の破傷風菌培養に成功し、翌年には破傷風菌抗毒素を発見して世界を驚かせます。さらにそれを応用して血清療法も確立。1892年に帰国後、伝染病研究所を創立。1894年には、ペストの原因調査のため香港に赴きペスト菌を発見します。その後、慶応大学医学部の創設、日本医師会などの医学団体や病院の設立など、社会活動も積極的に行いました。

「新しい日本銀行券特設サイト」（国立印刷局）(https://www.npb.go.jp/ja/n_banknote/shokai/) からの抜粋に一部修正を加えました。

津田塾大学創立120周年記念事業

「津田梅子の小袖修復プロジェクト」総合報告展 ～心をつなぐ手仕事～

会期 2023年
11月13日 Mon. - 12月15日 Fri.

会場 津田塾大学小平キャンパス 津田梅子記念交流館

山根記念ギャラリー

11月14日（火）にギャラリートークを開催（詳細はWebで）

※小袖の実物展示：2023年12月3日（日）～8日（金）/ 於 津田梅子資料室



公式ウェブサイト
<https://www.tsuda.ac.jp/event/2023/1113.html>